# TBA・機械工具版

電話03(6667)1037
FAX03(6667)1041

## サステナビリティの取り組み報告 MS&AD

MS&ADインシュアランスグループホールディングスは「レジリエントでサステナブルな社会」の実現に向けた取り組み報告書「サステナビリティレポート2023」を作成した。

同社グループではサステナビリティを中期経営計画の基本戦略を支える基盤として位置づける。グループ・ステークホルダーの双方にとって重要度の高い「地球環境との共生」「安心・安全な社会」「多様な人々の幸福」の実現を三つの重点課題として、取り組みを進めている。

同レポートでは、気候・自然関連の財務情報開示や、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するための商品・サービスについても報告。自動車保険関連の取り組みでは「EV（電気自動車）等買替費用特約」や「EV充電設備損害補償特約」のほか、温室効果ガス排出量算出・可視化サービスなどを分かりやすく紹介している。

# 2024年最重要戦略

## サイトで作業実績紹介 先行SSは修理依頼2倍

### カーコンビニ

「カーコンビニ倶楽部（林成治社長）はFC（フランチャイズ）加盟店の集客・収益向上から勝ち残りをバックアップする「2024年最重要戦略」を発表した。取り組み強化すべき施策について、顧客の行動履歴検知からの効率的な広告配信や、LINE活用の集客支援・囲い込みツール導入などをあげる。戦略の一つ目として掲げる「カーコンサイトでの作業実績の紹介強化」では、先行SSで修理依頼が約2倍に増えたケースもある。

林成治社長

目はグレードを含む車種／詳しい修理箇所／どの点に留意したかといった作業内容／修理費用／作業時間／カーディーラー2倍に増え、現在は見積もり現場が追いつかないほど。来店経緯を聞くとネットでの上位表示と豊富な実績が紹介されていたから、という声が圧倒的。作業実績紹介はいますぐ取り組むべき」とコメントする。

集客支援・囲い込みツール「Chokuチョク」は、車両ナンバーを入力するだけで、顧客のスマホに最適なクーポンなどを自動で配信するツール。来店頻度を高めてリピーター創造に一役買う。

「人口減少にともなうドライバー減少、さらにアフターマーケットの縮小も予想される状況。どのように顧客の他社流出を防止し、新規を取り込むか。この問題を放置すれば経営も悪化する。いまこそ取り組みをスタートさせる時」（林社長）。

同サイトの加盟店ページでは自社情報のほかに修理事例といった作業実績を掲載できる。林社長は「ユーザーの情報源はウェブやSNSにシフトしており、作業実績紹介を徹底している店舗とそうでない店舗の集客数の差は歴然」と強調する。

作業実績の重要な項目はグレードを含む車種／詳しい修理箇所／どの点に留意したかといった作業内容／修理費用／作業時間／カーディーラー参考価格との比較／顧客の声など。

積極的に取り組んでいるSSは「半年間、毎日実績を投稿したことで修理依頼はおよそ2倍に増え、現在は見積もり現場が追いつかないほど。来店経緯を聞くとネットでの上位表示と豊富な実績が紹介されていたから、という声が圧倒的。作業実績紹介はいますぐ取り組むべき」とコメントする。

集客支援・囲い込みツール「Chokuチョク」は、車両ナンバーを入力するだけで、顧客のスマホに最適なクーポンなどを自動で配信するツール。来店頻度を高めてリピーター創造に一役買う。

「人口減少にともなうドライバー減少、さらにアフターマーケットの縮小も予想される状況。どのように顧客の他社流出を防止し、新規を取り込むか。この問題を放置すれば経営も悪化する。いまこそ取り組みをスタートさせる時」（林社長）。

### 4年ぶりにリアル発表会

カーコンビニ倶楽部の2024年最重要戦略は、4年ぶりにリアル開催した「戦略発表会」で紹介された。同会にはSSのFC（フランチャイズ）加盟店など約130社170人が参加した。

加盟店代表者による取り組み発表や優秀加盟店の表彰、カーコンカーリースで取り扱い中の多用途小型商用電気自動車「ELEMOK」の概要などを紹介した。懇親会では同社イメージキャラクターのタレントが登壇し華やかに会が進行した。

発表会の様子

# JMS2023 ブース探訪（下）

## 各社最新製品・サービス訴求

### アルティアEV対応カアピール

「ジャパンモビリティショー」でアルティアは「EV（電気自動車）に強いアルティア」をアピールするため、豊富なEV整備機器・バッテリー機器群を出展。「バッテリーパック充放電器」はバッテリーパックのセルフ最大・最小電圧や温度、実際総電圧など内部性能分析を行うことが可能。「モジュールバランサー」「バッテリーチャージャー&パワーサプライ」なども出展した。スキャンツールではタブレット型「SSSーT2」やハンディー型「SSSーαⅡ」の製品訴求に努めた。

アルティアブース（上）とEVバッテリー機器

KeePer技研は「フレッシュキーパー」と「EXキーパー」の施工車両を展示した。「洗車の水と時間を劇的に減らし、あなたと家族の大切な時間へ」と題して、プリウスPHV（プラグインハイブリッド車）購入時にダイヤモンドキーパーなどを施工したユーザーが、年間洗車回数を減らして、家族と過ごす時間を捻出できた実話をストーリー形式で紹介した。同事例では5年間で約3900㍑の水を節水しており、エコにもつながったと説明した。

キーパーブース

多種多様なオリジナルカーマットを訴求したのが栄和産業。新商品の「DX極」はプリント柄を取り入れることで従来になかった表現が可能となった。スポーティなチェック柄が車内をおしゃれな空間として演出。今後の製品開発に生かすためカラーラインアップを参考出展し、好みの色のアンケートを取るなどした。抗菌・抗ウイルス対応のACシリーズも訴求。

ニチコンはEVなどの電力を家庭用電源として活用するV2Hの新製品「EVパワーステーション VSG-6 66CN7」を、また独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）は自動車の安全性能を評価する自動車アセスメントの試験後の車両を紹介した。

各社出展ブースのほか総勢40組を超える人気アーティスト・芸人によるフェスや子ども向け職業体験コーナー、試乗体験会といった大人も子どもも楽しめる多彩なイベントがにぎわいをみせた。

（おわり）

栄和産業ブース

### 栄和産業 新カーマット出展

# 直営店2023年9月売り上げ KeePer技研 118・8%

【大府市＝愛知】KeePer技研（本社大府市・賀来聡介社長）は、2023年9月の販売実績（速報値）を公表した。全国直営108店舗の売り上げ合計は、8億3275万6450円（前年同月比118・8%）となりいぜん堅調だった。

ただ東京都および神奈川県の8店舗と大阪府の2店舗が前年実績を大きく下回り、要因としては同社のダイヤモンドキーパーとビッグモーター社のダイヤモンドコーティングが一時混同されたためと分析する。

施工の内訳をみると、最上級グレードの「EX（イーエックス）キーパー」が913台（前年同月比120%）と順調に推移し、増益の原動力となった。

また新メニューの「フレッシュキーパー」が1965台（169%）と全コーティングのなかで最も高い伸び率を見せており「ECOプラスダイヤモンドキーパー」が加わったダイヤモンドキーパーシリーズも3947台（116%）と好調となった。加えてそれらを補完するかたちで、メンテナンスケア類等が5403台（111%）と依然高いレベルをキープしたことも売り上げを支えた。

エリア別では、東日本ラボ（51店舗）の売り上げは4億2305万9733円（119・2%）。一方、西日本ラボ（57店舗）は4億969万6717円（118・5%）となり、伸び率では東日本ラボが上回った。

# 会員9次募集11月末まで EV試乗セミナー追加

### 次世代せいび研究会

あいおいニッセイ同和損害保険とあいおいニッセイ同和自動車研究所が展開する次世代せいび研究会は、第9次会員を11月末まで募集中だ。同研究会の目的はSS含むモーター（自動車関係）代理店の次世代自動車関連の整備知識・技術習得支援。設立5年目で会員数は約1000社にのぼる。

主な会員向けメニューは①商材ひろば（カーディテーリング関連商材紹介）②ウェブ研修③エーミング出張デモ会④2000件以上の故障事例集⑤せいび電話相談⑥スキャンツール・ターゲットシェアリングなど。

2023年度下期の新メニューとして、来年2月5～6日に同研究所東富士センター（静岡県裾野市）で実車体験型「EV（電気自動車）対応セミナー」をラインアップ。同社は「EVの点検・整備を実施する上で必要な知識・技術を習得できる。試乗でパワートレインの違いを体験してもらうことで次世代自動車それぞれの特徴についても理解を深められる」としている。

高電圧の遮断方法やメンテナンス作業の確認、ブレーキフルード交換、メーカー指定の点検項目などを学ぶ。高電圧部分を作業するのに必要となる労働安全衛生法に基づいた「電気自動車等の整備に係る特別講習」の内容も含まれ、研修終了時には修了証も交付する。下期は1度のみ開催だが2024年度は回数を増やし開催する予定。

また第9次会員募集号（1と2）から12月12日を「バッテリーの日」として同会が制定した。

# 4～6月 損保協会まとめ 新規苦情 前期比133%

一般社団法人日本損害保険協会は、そんぽADRセンターへの2023年度第1四半期（4～6月）苦情・紛争解決手続き実施概況をまとめた。同センターは損害保険に関する一般的な相談ほか、保険業法に基づく紛争指定解決機関として損害保険会社とのトラブルが解決しない場合の苦情受付を行っている。

同期間の新規受付手続き件数は苦情解決が1130件、紛争解決が123件。前期受付分と比較すると、前者は281件（33・1）増加し後者は6件（4・7%）減少した。また昨年同期比では前者は240件増加、後者は21件減少した。

自動車保険の代表的な苦情事例は①配偶者が自損事故を起こして自動車を損傷させたため、車両保険金の支払を求めたが保険会社は応じなかった②自動車保険を他社から乗り換えた際、ノンフリート等級が継承できなかったため、他社契約の等級を継承できるよう求めたが保険会社は応じなかった―など。

①では保険会社は重要事項説明書において補償の対象とならない事故をわかりやすく明確に記載しており要求には応じられない旨を主張。しかし当事者双方から提出された資料や意見聴取により募集人の説明等は必ずしも十分ではなかったことを確認。和解金を支払い和解が成立した。

# 電池月間 認知促進へ

## 今年もPRキャンペ

### 電池工業会

一般社団法人電池工業会は、電池月間（11月11日～12月12日）を認知促進するとともに、正しい電池の使い方をユーザーに啓発する「電池月間PRキャンペーンクイズ」を今年もスタートした。

「11月11日～12月12日は○○月間」の○○の部分を当てるクイズに回答して応募すると、JCBギフトカード5万円分（5人）やQUOカード1000円分（100人）が当たる。同会サイト応募フォームから受け付ける（12月31日まで）。

キャンペーンを通じて自動車用バッテリーを含む電池の正しい使い方や処分方法を啓発する。自動車用バッテリー（二輪車用を含む始動用鉛蓄電池）については「購入した販売店へ処分を依頼すること」をユーザーにあらためて呼びかける。

電池月間は、漢数字の十と一が「プラス」と「マイナス」に見えることから11月11日を「電池の日」に、野球のピッチャーとキャッチャーのポジション番号（1と2）から12月12日を「バッテリーの日」として同会が制定した。

# ポンプ使わずタンクから移送

## 乾電池式自動停止も可

### アクアシステム

オートストップノズル

【彦根市＝滋賀】アクアシステム（滋賀県彦根市・木村匡伸社長）は、貯蔵タンクからオイルなどの小分けに役立つ乾電池式の「センサーオートストップノズル」の販売を15日から開始する。

ポンプを使わずに自重落下だけで油を移送するのが特徴で、自動停止機能を搭載している。「油移送の常識を覆した」という同社自慢の製品は、液体に反応して自動で停止するセンサーをノズル先端に内蔵。ポンプ本体がなくてもオイルを移すことができる仕組み。乾電池（リチウム一次電池）3本使用で寒冷地でも性能が変わらず約200回使用できポンプとセット使用も可能。5万円（税込み）前後で販売予定だ。

# 1月グローバル経営体制強化 企業価値向上へ変革加速

### BS

ブリヂストンは、2024年1月1日付でグローバル経営体制を強化する。グループ創立100周年の2031年へ向けた道筋「2030年長期戦略アスピレーション（実現したい姿）」に沿ってコムのように強靭でしなやかに変化をチャンスに変える「レジリアントな〝エクセレント〟ブリヂストン」への変革を掲げる。

グローバルCEO直轄の3機能（グローバルCEO室、グローバル経営戦略、グローバルサステナビリティ戦略）を明確化するとともに、グループのビジネスを大きくBRIDGESTONE EAST、BRIDGESTONE WESTに区分する。EAST傘下にはBSJP（日本タイヤ）／BSDP（加工品・多角化・探索）／G-MICA（グローバル鉱山・産業・建設車両用・航空機用タイヤ・ソリューション）／BSAPIC（アジア・パシフィック・インド・中国）、WEST傘下にはBSAM（米州）／BSEMEA（欧州・中近東・アフリカ）を置く。

より現場に密着し課題に深く入り込めるよう、地域・市場特性・各地域におけるオペレーション・経営力／市場ポジションから、細かくビジネスを「エリア」として28エリアにブレークダウン。実行と結果にこだわるビジネス原単位を構築する。

石橋秀一グローバルCEOは「課題を先送りしない／実行と結果に拘る／将来への布石を打つという三つの軸でこれまで経営を進めてきた。今後もこれらを軸としながら次のステージへ移行し、変革を加速させ持続的な企業価値の向上を実現していく」とコメントしている。

# TOYO TIREの人事異動

TOYO TIREは執行役員の異動および人事異動を発令した（カッコ内は旧職）。

▽執行役員生産統括部門管掌、国内生産本部長（国内生産本部長）宮守正美▽執行役員Toyo Tire North America Manufacturing Inc会長&CEO（執行役員生産統括部門管掌、Toyo Tire North America Manufacturing Inc出向）多田寛＝2024年1月1日付。

▽福島ゴム社長（国内生産本部生産統括管理部付、Toyo Tire North America Manufacturing Inc出向）宮崎祐次＝1日付

# 横浜ゴムの1日付人事

横浜ゴムは、1日付で人事異動を実施した（カッコ内は旧職）。

▽ヨコハマヨーロッパ副社長（経営企画部長）槇隆司。